

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 17 日作成)

委員会名	時系列リスク管理理論小委員会	主 査 名：栗田 哲
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：上谷宏二
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	時系列リスクのモデル化と管理計画確立の理論的裏付けを行うことを目的とする。2001 年度：公開委員会を開き、この研究分野の現況と本委員会の計画について、一般会員からの意見を聞く。2002～2003 年度：現象の分析及びモデル化と、その数理的・理論的表現を行う。2004 年度：これまでの成果と今後の展望について、セミナーを開く。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：栗田 哲(東北大学) 幹事：藤堂正喜(戸田建設)・奈良岡浩二(清水建設) 委員：和泉正哲(清水建設)・浅野幸一郎(関西大学)・石田勝彦(電力中央研究所)・大堀道広(工学院大学客員研究員)・滝澤春男(北海道大学)・武田正紀(清水建設)・石田寛(鹿島建設)・矢花修一(電力中央研究所)・高田毅士(東京大学)・佐伯琢磨(応用アール・エム・エス)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	140,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 1 月 14 日，建築学会本部にて委員会を開催。参加者は 7 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震リスク評価が多方面で行われるようになり、それと精緻化に伴い地震リスク評価に使用する地震危険度解析法は多種多用化し、その理論的裏付けが明確でない方法もある。そこで、高田委員に日本全国を対象とした地震危険度解析と確率論的想定地震について話題提供して頂き、解析法の進展や現状の問題点、今後の理論的研究の方向について議論した。 ・地震リスクにおける損失評価法の一例として、地震による被災住民の生活再建にかかわる経済被害の評価を取り上げ、佐伯委員から被害調査に基づいた損失評価モデルの作成方法を提案して頂き、それについて議論した。 ・「電力流通機能損傷評価とそれに基づく次世代リスクマネジメント」の手法と解析例を石田勝彦委員から話題提供して頂き、議論した。
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 現象とモデル化について、具体例を用いて委員から資料を提出して頂き、議論をし、セミナー開催の準備を行い、目標を達した。議論の中で、今後の研究の方向として、リスク間の相関を考慮したリスク評価法などが見えてきたことは、有意義であった。
その他評価すべき事項	